

公表

事業所における自己評価総括表

児童発達支援

○事業所名	ギフトド板野		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達段階に応じた個別支援計画を作成し、一人ひとりの特性に合わせた支援を行っている。	感覚遊び、運動遊び、制作活動などを取り入れ、楽しみながら発達を促す活動を行っている。	児童一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援をさらに充実させるため、職員間で児童の様子や支援内容について共有する機会をより多く設け、丁寧な関わりができるよう取り組んでいく。
2	遊びや生活活動を通して、基本的な生活習慣やコミュニケーション能力の育成を大切にしている。	個別活動のみならず小集団活動を通して、順番を待つ・友達と関わるなどの社会性を育む支援を行っている。	遊びや生活活動を通して社会性や基本的な生活習慣を育む支援を継続しながら、子ども同士の関わりを大切にしている小集団活動の工夫を行い、安心して活動できる環境作りを進めていく。
3	保護者との情報共有を大切に、送迎時のやりとりやご利用時のフィードバック時間を通して家庭と連携した支援を行っている。	子どもの成功体験を大切に、自信や意欲につながるよう関わり方を工夫している。	保護者との情報共有を大切に、日々のやりとりやフィードバックを通して家庭と連携しながら、子どもたちの成長とともに支えていける支援の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援を行っているが、職員によって関わり方や支援の視点に少し違いが生じることがある。	職員それぞれの経験や得意分野が異なるため、支援の捉え方に違いが生じることがある。	児童の様子や支援方法について職員同士で共有する機会をより多く設け、安心して過ごせる環境作りにつなげていく。
2	遊びや身体活動、感覚的な活動を取り入れているが、活動内容の振り返りや整理の時間をさらに充実させていく必要がある。	日々の支援や業務により、職員同士でゆっくり話し合う時間が十分に確保できないことがある。	活動の振り返りや情報共有の機会を設け、子どもたちの発達に繋がる支援内容の充実を図っていく。
3	身体活動や感覚遊びを取り入れているが、目の動き身体の使用など、発達の基礎となる力への働きかけをさらに意識していく余地がある。	児童の特性や発達段階が様々であり、それぞれに合った活動を整理していく必要がある。	子どもたちが楽しみながら取り組むことができる活動を工夫し、身体面や発達面の両方に繋がる支援を行っている。